

会議記録

会議名	第2回杉並区多文化共生推進懇談会
日時	令和6年7月9日(火) 午後6時30分～午後8時30分
場所	杉並区役所 西棟6階 第7会議室
出席者	〔委員〕 嶋田委員、田内委員、谷原委員、シヴァ委員 福智委員、松尾委員 〔区〕 区民生活部長兼文化・スポーツ担当部長(寺井) 〔事務局〕 文化・交流課
傍聴者数	3名
配布資料	資料1 聴くオフ・ミーティングの報告 参考資料1 日本人向けアンケート集計概要 参考資料2 外国人向けアンケート中間集計概要 参考資料3 【杉並区】多文化共生聴き取り実態調査票 参考資料4 (仮称)杉並区多文化共生基本方針の概要 参考資料5 多文化共生基本方針 体系図(案)
会議次第	〔議事〕 1 開会 2 議題 (1) 5/25開催「聴くオフ・ミーティング」について (2) 住民意向アンケート(日本人向け)の集計概要について (3) 住民意向アンケート(外国人向け)の中間集計概要について (4) 多文化共生聴き取り実態調査について (5) 区民向け意見募集について (6) 多文化共生基本方針について ① 将来像、重点項目及び実施する取組について ② 基本方針の策定方法について (7) その他 3 事務連絡 4 閉会

会議の内容 および 主な発言等	要旨・発言内容
1 開会挨拶	<p>【寺井部長挨拶】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・杉並区の人口の現状について、外国人住民の数が6月1日現在で20,666人となり2万人を突破している。ネパール人人口が韓国人人口を追い抜き、中国→ネパール→韓国の人口順位になった。 ・この間、「聴くオフ・ミーティング」をはじめ、各種団体の協力により外国人の方から多くの話を伺っている。 ・本日は事前に資料を送付したとおり、杉並区の基本方針の将来像、重点項目などについて、文言レベルでご意見をいただき固めていきたい。
2 議題	<p>【1 5月25日開催「聴くオフ・ミーティング」について（資料1）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「聴くオフ・ミーティング」とは、区長と区民が、行政課題をテーマに直接意見交換を行う会。（年4回実施） ・今回は「多文化共生ってなに？外国人から見る杉並区を話し合おう」というテーマに基づき、総合計画・実行計画改定で新たに「多文化共生」を施策の一つに位置付けたこと、また、「(仮称)多文化共生基本方針」の本年度中の策定に向けた動きがある中、区民の多文化共生に関する理解を深め、幅広い意見を聴取することを目的に開催した。（主催は区政相談課） ・無作為抽出した区民2,000名に開催案内を送付したほか、区広報で周知を行い、計65名の応募があった中から、第1回（午前）に20名、第2回（午後）に19名が参加した。 ・内容は、初めに本懇談会の委員でもある嶋田氏から、「杉並区地域日本語教育総括コーディネーターの立場から考える多文化共生」について説明があり、続いて文化・交流課長から杉並区の考える多文化共生、また外国人人口の現状や取り組んでいる事業についての説明や紹介を行った。その後、参加者5名ずつがグループになり、多文化共生についてグループトークを行った。外国人住民が1名ずつ各グループに入り、生活での苦労など実体験を共有した。最後に全員で輪を作り、1人1分で参加者が多文化共生に関して思ったことなどを発表した。 ・スクリーンに投影した資料は当日、多文化共生の考え方について説明したもの。「多文化共生」については、総務省で定義を掲げている。 この定義に沿って以下について杉並区の考え方を説明した。 <ul style="list-style-type: none"> ① 違いを認め合うことについて ② 対等な関係について ・資料に感想の一部を掲載しているが、参加者一人ひとりが多文化共生について考える機会となった。 ・今回の聴くオフ・ミーティングでは、下記の2項目をゴールとして設定していたが、どちらも達成できたと感じている。

- ① 多文化共生について理解し、周囲に説明できるようになる。
- ② 文化的な違いを認め合い、杉並で共に生きていくための意見やアイデアが全員から出されている。

- ・午後に行った第2回の様子が YouTube で配信されているので、時間のある際には是非見ていただきたい。
- ・参加者それぞれが真剣に多文化共生について考えており、区民からも関心が高いテーマなのだと再認識した。また、直接区民の意見を聞く良い機会となった。多文化共生の意識の啓発・醸成を図るためのイベントは、方針の中でも重要な事業となるので、このような機会を今後も大切にしていくとともに、機会の創出についても検討していく。

《嶋田委員から》

グループトークや1人1分の発表などがとても良かった。参加した学生や、外国籍ボランティアの方、その繋がりでも後日小学生対象の事業を実施したりなど、このような機会にいろんな人たちが繋がっていくのがとても良かったと思う。大きな会はなかなかできないが、ミニ版などをいろんなところで今後も開催できるとよいと思う。

【2 住民意向アンケート（日本人向け）の集計概要について（参考資料2）】
 および

【3 住民意向アンケート（外国人向け）の中間集計概要について（参考資料3）】

- ・アンケートの調査方法
 - 日本人／外国人各2,000名にアンケートを送付。外国人アンケートではやさしい日本語を含めた5言語で実施した。
- ・回収結果（速報値）
 - 日本人アンケート回答率は、12.8%。
 - 外国人アンケート回答率は、22.0%。
 - 外国人の回答率が高い結果となった。
- ・アンケートの内容について
 - <日本人向けアンケートについて>
 - 日本の在住期間
 - 「20年～50年未満」が43.8%と、在住歴が長い方が多い傾向。
 - 生活をする中で困っていることは何か
 - 回答者の多くは在住期間が長期であるためか、「仕事・収入・税金・物価」といった生活に身近なことが上位を占めている。「住宅のこと」「災害時の対応」「病院・医療のこと」にも関心があることが分かる。
 - 地域に外国人が増えていくことについて、どう感じるか
 - 「生活するルールや習慣の違いからトラブルが起きる」と不安を示す声が多一方で、「外国の文化を知る機会が増える」、「外国人・外国語に触れる機会が増え、知見が広がる」と好意的な意見も多く、賛否両論あ

る。この問に対し、実体験には基づかないと答えたのが約60%で、イメージによる回答が多いということが伺える。

●地域のどのような交流機会に参加したいか

「外国人との交流」や、「外国の歴史・文化を紹介するイベント」など、外国人との交流機会を求めていることが分かる。

<外国人向けアンケートについて>

●回答者の属性、来日目的

「20代」が43.9%、在留資格の「留学」が32.8%という傾向から、来日目的の項目の回答は、「勉強・仕事のため」が多いが、日本の国に興味があるため来日している外国人も多いことが分かる。

●生活で困っていること

日本人と同様、「税金・物価・収入」などが多いが、20代・留学生からの回答が多いことを考えると、同じ税金・収入といった回答でも質が異なると分析できる。また、相談先がわからないという方も多いことは留意すべきポイントである。

●日常生活での困りごとの相談先

「知人・友人、家族」などに相談できる方が多い一方で、「相談する相手がない」という回答もあったため、対応が必要と考える。

●普段の生活で使用する言語

約半数が日常生活で日本語を使用しているが、英語と中国語も多いことがわかる。杉並区の在住外国人の人口上位3か国が中国・ネパール・韓国であることを考えると、やはり「やさしい日本語、すなわち、わかりやすい日本語」の普及が重要であると感じる。

●地域のどのような交流機会に参加したいか

外国人同士よりも日本人との交流機会を求めている結果が多くなっており、コミュニティの場の提供が大切であると感じる。

●生活情報の入手先

「インターネット」が最も多く、日本人のアンケートでは多かった「区の広報誌」や「ホームページ」があまり見られていないことが伺えるので、情報の発信方法を模索していく。

・このアンケート結果は、参考資料として方針に掲載予定。また、ここから見えてきた意見や提案は、多文化共生社会をつくるための重要な情報となるので、基本方針の重点項目などに反映していく。

・このアンケート結果から見えてきたことをどのように方針に反映させていくか、委員にご意見等をお伺いしたい。

《委員からの意見等》

○町会の集まりで多文化共生について共有したところ、外国籍の方とどう接したらよいか、どのように交流したらよいか、どう発信したらよいか分からないと言われた。アンケート中にもある日本人との交流とは、外国籍の人も日本の人もどうしたらよいか分からないのではないのか。

外国の方はインターネットを多く見ているようなので、町会ごとのホームページを外国人向けに発信していけばよいのではないかと思います。

→まだアイデアの段階だが、イベントをできるメンバーを連れて最初の一回を出前するプロジェクトチームのようなものを作ってみたいと考えている。そこで実績ができれば、2回目からは皆さんが自分たちで考えながら運営していくことができるのではないかと。(事務局)

→後述するが、外国人の方にヒアリング調査を行う中で、各ホームページ内で情報検索をする方は少なく、グーグルなどの検索エンジンで「杉並区 イベント」のような探し方をし、ヒットした情報を見に行く方が多い。なので、検索エンジンでヒットしやすい単語を入れておくとか、区のホームページの精度を上げていくことなどは課題だと認識している。(事務局)

○学校というような箱物をこれから地域の核として、どのようにかして利用していくのも一つの方法ではないか。

また、地域住民が使えるアプリ、例えば学校でいう「テトル」のようなものを外国人向けに活用しないのか。教育委員会などと連携し活用していかないと勿体ないと感じる。地域情報などが集約されているし、区のいろいろな課が主催するイベント情報なども入ってくる。一度検討してみてはいかがか。

→学校という箱物活用については、今、交流協会と済美教育センターと連携しながら、子ども日本語教室を高円寺と済美（永福地域）でやっているが、開催場所に非常に偏りがあり、特に京王線沿線の子供たちが通えていない。この現状を鑑み、嶋田委員や学校支援本部などを巻き込みながら、学校の教室などを活用し、サテライト的な取り組みをできないかと調整しているところである。

もう一つは情報の発信について。区役所はいろんな課が独自の情報発信の仕方を持っていて、統一されていないという問題がある。外国人から話を聴いていると、各主管課にそれぞれにアクセスしないと必要な情報が手に入らないので、どこか一つのところに自分たちに必要な情報が集約されているというような情報発信をして欲しいという要望がある。既存のものを活用するのか、新しいものを作るのか、検討課題として認識している。(事務局)

○行政関連にはアナログベースで運営されている団体がある一方、受信者には情報をデジタルでキャッチしたい人もいて、その間に誰か、何か、仕組みが入るべき。

○テトルの話が出たが、まだ日本に来て日が浅い海外ルーツの方（児童の保護者）が、送られてくる情報の中から自分の子どもや家庭に関する情報を探す、キャッチすることは難しい。例えば家族構成などを登録すると、その家庭に必要な情報だけが届くなど、そこまで情報が優しく届かないと厳しいのではないかと思います。

○アンケートの自由意見の中で、杉並区に住民登録されていないと思われる方からの回答が見受けられたが何故なのか。

→手元に届いたアンケートを知人に渡し回答した等の理由が推測される。懇談会の場で委員の皆様に取り扱いをお諮りする趣旨で掲載したが、今回の調査対象でない方からの回答であるため、アンケート結果からは除外し、参考として取り扱っていきたいがいかがか。(事務局)

→一同了承

○日本人、外国人を問わず、地域の中で住民同士を繋ぐ役割の人材を育成していくことを一つの課題ととらえている。(事務局)

○情報が溢れている中で、自分にとって本当に必要な情報が分からなくなり逆に情報弱者となってしまう「情報格差(デジタルデバイド)」についても区では課題として挙がっており、今後他部署と連携しながら対応を進めていきたいと思っている。詳しくは後述する。

○外国人向けアンケートは非常に回答し易い内容になっていたと思う。

○外国人向けアンケートの結果で、インターネットで情報収集する人が多い傾向が出ているが、ホームページや SNS もすべてインターネットに含まれるのではないか。(区公式 SNS は「X」と「Facebook」と「LINE」)

○最近の、特に若年層の留学生などは TikTok を使用していると思う。

TikTok のメリットはアカウントをフォローしなくても情報が流れてくる点。フォロワー以外にも情報が流れるため、多くの人に届き易いと思う。ホームページなどに沢山の文章を一生懸命書いても見つかりづらい。また、YouTube など長い動画はみんな見る暇がない。手短に見られるショート動画はウケが良いと思う。日本、韓国以外の人には LINE の普及率は低いかもしれない。

○日本語学校などにイベント情報などの資料配布や掲示を依頼してはどうか。

○アンケートで、地域に外国人が増えることについて、「生活ルールの違いからトラブルが起きる(12.4%)」、しかし60%が実体験には基づかないと回答されている。思い込みなのか、啓発活動の不足なのか、コミュニティの取組で解決できるのか、区としてはどう捉えているか。

→やはりステレオタイプな部分があり、周知不足も非常に感じている。プラスの感情もあれば、不安に思っていることもある、そういった日本人の方々に対しても啓発活動やアプローチを行い、不安を解消していくことが必要だと思っている。(事務局)

○集計については、現在は単純集計のみ行っているが、今後クロス集計を行い、いろんな角度から分析していく。(事務局)

○自由記述に、子ども日本語教室を増やして欲しい、資格を持った人が携わるようにして欲しいと意見がある。しかし、コミュニケーションをとるための語学セミナーに限らず、地域に住んでいる外国の方を理解するために、その方たちが講師となって参画するような語学セミナーなどを

行くと、いきいきとした交流をする機会になるのではないかと。

【4 多文化共生聴き取り実態調査について（参考資料3）】

- ・5～6月にかけて実施した区内在住外国人アンケートの集計結果の速報値から深掘りし、さらにヒアリング調査したい項目を選定。
- ・下記の方々にご協力いただき、本日までで計19名の方に、対面形式での聞き取り調査を実施。

●同アンケートの中で回答者に参加を募り、杉並区に自発的に連絡をいただいた方

●区議会議員から紹介のあった方

●文化・交流課で親交のある区内外団体のご協力でご紹介いただいた方
(にほんご学習すぎなみの会、LTC友の会など)

- ・これ以降も、子ども日本語教室の高円寺教室に通う児童の保護者や、東京ノアランゲージスクール、イーストウエスト日本語学校といった団体にご協力をお願いするなど、7月一杯を目安に調査を継続する。

- ・具体的なヒアリング項目は、参考資料参照。

【5 区民向け意見募集について】

- ・基本方針策定に当たり、これまで住民意向アンケートとして無作為抽出により日本人向けと外国人向けにアンケートを行ってきたが、さらに広く区民の方から意見をいただくために実施する予定。
- ・8月1日から31日を目途として、以下の媒体によりWebフォームに誘導する方法により実施する。
 - 8月1日号 広報すぎなみ
 - 公式ホームページ、Facebook、LINE、X等
 - 公民連携プラットフォーム「すぎなみボイス」

《委員からの意見》

○より広く意見を集めることについて賛同。学校などの機関のネットワークを利用して情報を流すと広まり易いと思う。

→区の持っているプラットフォームだけでなく、付き合いのある団体等に協力をお願いしたいと思っている。(事務局)

【6 多文化共生基本方針（案）について（参考資料4、5）】

① 将来像、重点項目及び実施する取組について

●将来像について

将来像の文言には多文化共生が大きな意味で人権課題であることを捉え、「人権」を加えた。また、「多様な文化」を「互いの文化」とすることで、個々の関係の中で顔が見える関係を意識した。さらに、「誰もが」を「すべての人」として抽象的な言葉をより分かりやすい文章とした。

●重点項目について

国の指針でも多文化共生に求められている「コミュニケーション支

援」「生活支援」「意識啓発と社会参画支援」「地域活性化へのグローバル化への対応」を考慮し、アンケートの結果から見えた支援の段階を意識して4つの柱とした。

以上について委員にお諮りしたいがいかかか。

《委員からの意見等》

○内容はかなり分かり易く、見易くなったと思う。

レイアウトについてはさらに修正が必要だと思う。

→レイアウトやデザインは追って検討していく（事務局）

○「人権」の文言を入れ強調されたことは良いと思う。

○「いきいき」の表記は漢字を使用しなくても良いのなら、ひらがな表記が良いと思う。漢字圏を除く外国人にはひらがなの方が伝わり易い。誰にでも分かるということがいかに大事なのか、特にこれからの共生社会を支えていく子どもたちに分かり易いということはすごく大事だと思う。

→今回確認いただいた内容で、今後、区内部の調整を進めて行く。

大枠を崩すことはないが、表現等の変更があった際には、またご報告させていただく。（事務局）→ 一同了承

② 基本方針の策定方法について

●杉並区多文化共生基本方針（案）策定に当たっては、日本語版とやさしい日本語版の2種類での策定か、日本語とやさしい日本語を併記するかをお諮りしたい。他自治体などは日本語版にルビを振っただけのものであったり、完全にやさしい日本語に言い換えたものであったり、いろいろなパターンで作成しているがいかかか。（事務局）

《委員からの意見等》

○日本語版の漢字に読み仮名を付けるだけでは分かりにくい

○やさしい日本語は併記するより別冊に分けたほうが良い

○併記されていると、やさしい日本語は初心者向けで最終目標が日本語のように感じられるが、それはおかしいと思う。やさしい日本語も他の言語と同様に一つの言語として地位を確立するためにも、分けて作成した方が良いと思う。

→委員意見も踏まえて、日本語版、やさしい日本語版は分けて作成することとするがよろしいか。（事務局）→ 一同了承

●基本方針策定後、日本語版は令和6年度中に、追って英語／中国語／韓国語／ネパール語の4言語の翻訳版も作成するが、議会報告や予算等の関係から、令和7年度になってからの作成及び公表となる予定。やさしい日本語版もこの時期に併せて公表したい。（事務局）

→一同了承

	<p>【7 その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他部署との連携や現状のムーブメントについて（事務局） <ul style="list-style-type: none"> ●デジタルデバインド対策検討グループ会 <p>情報通信技術を使える人と使えない人の間に生まれてしまう情報格差を解消するための動きがあり、その会議体に参加している。機器を持っているか否かという問題だけではなく、言葉の壁による情報格差にどのようにアプローチしていくかを課題として検討している。</p> ●杉並区子どもの居場所づくり基本方針策定検討会 <p>杉並区は子供の権利に関する条例を今後策定予定であり、子どもたちやボランティアの方に「子どもの権利」について、周知する勉強会を開く予定である。</p> ●公民連携プラットフォーム「すぎなみボイス」 <p>7月1日から杉並ボイスというプラットフォームスキームの運用が始まった。区の課題について区民がディスカッションできる場であり、こういった新しい手法も取り入れながら情報発信をしていきたいと考えている。</p> ●外国人母子ネットワーク会議 <p>外国人の出産や妊娠に対して、保健所やNPO、区内の病院等が集まって、こういった課題があり、どのように医療的なアプローチをしていけばいいかなどを話し合う会議をしている。</p> <p>ここに出席し、外国人にこういった課題があるのか情報を収集している。</p>
事務連絡	次回開催は10月3日（木）
閉会	